

わくわく橘っ子

橘小学校

人権教育便り NO. 3

令和6年5月



～5月20日 朝会 校長先生のお話から学ぼう～ 「いじめの矢と心」のお話

「これが心です。普段は見えない心だけど、皆さんに見えるように作ってきました。」とピンクの箱を児童に見せました。

「みなさん、いじめってどんなこと？」と質問されました。

- 無視をすること。
- 暴言や暴力のこと。
- からかうこと。

の意見が児童から出ました。

児童の意見が出る度、校長先生はピンクの箱(心)に矢を突き刺していきました。そして全校児童に見せ、「今、いじめを受けた心はどうなっている？」と聞きました。児童からは「心が痛い。」「心が傷ついている。」と言葉が出ました。

「このままでいいのかな？」と校長先生。すぐ児童から「あかん!」「いじめをしている子を止めなあかん。」「いじめをしている子に言わなあかん。」「そうせな、この子は心が壊れてしまう。」「家から出れんようになってしまう。」と必死に答える児童。



校長先生は、「そうですね。家から出られなくなるだけでなく、いじめは、その子の命まで奪うこともあるんです。」とつぶやきました。

全校児童は、静まりかえりました。校長先生が、「この矢を抜く方法ってある？」と静かに問いかけました。

「『どしたん?いける?』って声をかける。」と児童。矢が一本抜かれました。

「『一緒に遊ぼう。』と誘う。」と児童。また矢が抜かれました。

「『先生、〇〇さんが困っています。』と知らせる。」と児童。また、矢は抜かれ

たけど、ピンクの箱(心)にまだ、矢は残っています。

「いじめはあかん!」「いじめたらあかん!」といじめを止める言葉が次々に発表され、矢は全部抜かれました。

「あれ?穴が開いてる。」と児童。校長先生は、ピンクの箱(心)に開いたたくさんの穴を見せ、「一度刺さった矢、いじめは後に残るんだね。穴をふさごうとしてもなかなかふさがらないね。」とおっしゃいました。

「みんなの心にこんな傷を作って欲しくありません。これからの言葉や行動を考えていこうね。」と話をしめくられました。

児童は、目の前で見た「いじめの矢と心」に感じるものが強くあったようです。



